**公明のネットワークで　点字ブロックが敷設**

**視覚障がい者の声受け奔走**

大阪市北部を東西に走る主要地方道、通称・の南側、中央区と西区にまたがる延長約３６０メートルの歩道にこのほど、点字ブロックがされた。視覚障がい者らが切望してきた今回の点字ブロックは、公明党議員のネットワークの力で実現した。

**‟怖い道„が安心の歩道に 大阪市議、兵庫・伊丹市議が連携**

「この点字ブロックがなければ、ここまで来られませんよ」。そう笑顔を見せながら土佐堀通を歩いてきたのは昭二さん。

さんが声を上げたことがきっかけ。

　現場近くには、日本有数の視覚障がい者団体「社会福祉法人・日本ライトハウス」の施設がある。ここには、年間約５０００人もの視覚障がい者が足を運ぶという。濵田さんもその一人。しかし、来館に便利な土佐堀通の南側歩道には点字ブロックがなかった。

　この歩道の幅は３メートルと狭く、途中には自転車置き場もある。「視覚障がい者にとって“怖い道”」。そう濵田さんが、公明党の山本恭子・伊丹市議に相談したのは２年前の６月のこと。山本市議は即座に、大阪市の西市議と連携。共に現場を調査し、西市議が大阪市建設局に粘り強くすることで、点字ブロック敷設を推し進めた。

　「われわれも長年、大阪市に要望していたが、なかなか対応してもらえなかった。親身になってくれた公明党のおかげ」と語るのは、日本ライトハウスの竹下館長。要望した濵田さんも「公明党のさと、連携プレーに驚きを感じた」と、賛辞を惜しまなかった。

　「“一人の声”をカタチにするのが政治の役割」と強調する西市議と山本市議。府県を越えた公明党のネットワークが、視覚障がい者に安全・安心をもたらした。